

ニュースポーツ推進事業

取組に至る背景・事業の目的

- 全国的に女子中学生の体力の低下、運動時間の減少、働き盛り世代の運動不足が問題視されており、青木村でもその傾向がある。
- 村では高齢者の医療費が増大している一方で、子どもについても体力テストの「ソフトボール投げ」の結果が県平均の70～90%に止まり、基本動作である「投げる」という動作に未発達な様子が見られる。
- 現在行っている公民館事業に子どもから高齢者まで幅広い年代で楽しめるニュースポーツを取り入れることで、運動機会・時間の増加につながると考えられ、健康増進、医療費削減が期待できる。

事業内容

幅広い年代が楽しめる「ニュースポーツ」の用具を整備し、ニュースポーツの普及とスポーツ大会等を開催した。

- ①「上小スポーツレクリエーション祭 2018 秋の部あおきむらで遊ぼう！」
主に子どもを対象として、ストライクボード・スマイルボウリングの体験コーナーを設けた。
- ②「平成30年度 ヤンレ! さわやか秋季ニュースポーツ祭」
囲碁ボール、スマイルボウリングを使って12分館対抗のスポーツ大会を開催した。
- ③「ニュースポーツ体験」
小学生とその保護者で囲碁ボールを体験。スポーツ推進委員がルール説明、審判を行い補助した。
- ④「太鼓でドンドン♪脳トレ」
60代から90代までの高齢者を対象にして、認知症予防を目的とした太鼓を使った脳トレを開催した。



【囲碁ボールの様子】

事業効果

整備した備品を7回のイベントで延べ895人が使用し、事業終了後も多くの団体から広く活用いただいております。今後のニュースポーツの普及が期待される。

子どもから高齢者まで幅広い年代で取り組めるニュースポーツを主体としたスポーツ大会や体験会を開催することで、子どもの基本の運動動作の獲得、若者・働き盛り世代の運動不足の解消、運動時間の増加、高齢者の運動機会・時間の増加に寄与することができた。

- ①ストライクボードコーナーではうまくボールを投げられない子にスポーツ推進委員が指導したところ、ボールの飛距離が伸びたり、的を狙うことができるようになった子どもが多く見られた。スマイルボウリングコーナーではボウリング場とは違う感覚であるが身近に楽しめるということもあり、大人も子どもも一緒に楽しんでいた。
- ②参加者の運動不足解消、健康増進につながる良い機会となった。また、村内の良い交流の場となった。
- ③小学生にとっては普段、体験する機会が少ないスポーツだったが保護者と一緒になって楽しんだ。親子の良い交流の場となった。
- ④月に1回の楽しみ、交流の場ともなり、生きがいくりの場にもなった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 購入した備品は村内の方を中心に貸し出し、様々な場で活用していただく。
- 必要に応じてスポーツ推進委員など指導者を派遣していく。
- 学校現場と連携して必要に応じて貸し出しや指導に活用する。
- 普及に向けて公民館行事で積極的に取り入れる。(春・秋開催のニュースポーツ祭を中心に)
- 太鼓を使った脳トレ事業も継続して開催し、参加者の良い交流の場となっている。

【選定のポイント】

工夫をしながらニュースポーツの普及活動が行われ、多くの人にニュースポーツに触れる機会を提供できた。整備した備品は事業終了後も地域活動で積極的に利用されており、今後も住民への普及を積極的に行うことで、さらなる健康増進に活用されることが期待できる。

| | |
|--|---|
| <p>団体名 青木村 連絡先 0268-49-2224 (教育委員会事務局) kyouiku@vill.aoki.nagano.jp</p> | <p>事業タイプ ソフト・ハード事業 事業費 1,415,146円 支援金額 1,104,000円</p> |
|--|---|

「地域トラベルサポーター」を活用した特色ある観光地づくり

取組に至る背景・事業の目的

「旅をあきらめていた」障がい者（児）・高齢要介護者などを人的サポートのしくみ「地域トラベルサポーター」の助けを借りて、観光地周遊、温泉介助入浴など安心・安全・快適に楽しみ、新しい観光顧客として迎えるために「モニターツアー」を実施、同時に「地域トラベルサポーター」の資質向上、おもてなしの心を醸成、観光施設、地域住民との交流を活性化させることで「ユニバーサルツーリズム」を諏訪圏に定着させる。又、諏訪圏の強みである医療・福祉連携を「観光」に生かし、「食の安全」「接遇」「リハビリ」などへ展開、観光客及び観光着地に「安全・安心」を周知する。「地域トラベルサポーター」の存在が、幸せな旅行や外出を実現するために一助を切に願い、旅（外出）を身近に感じてもらいたい。

事業内容

- 首都圏からのモニターツアー
 - ・「サマーナイト花火IN上諏訪温泉ツアー」
 - ・「山登りに挑戦したい」サポートツアー
 - ・「静岡県肢体不自由父母の会御一行」入浴介助
 - ・「水頭症姉弟」の入浴介助
 - ・甲府市「あおぞらの里」認知症の方々の宿泊忘年会同行支援と温泉入浴介助
 - ・「脳性まひ児童のスキー体験・一般浴入浴介助」
- 首都圏からのリハビリツアー
 - ・「上諏訪温泉リハビリ」「富士見高原散策」ツアー
- 諏訪圏の日帰りツアー
 - ・「障がい者の全介助入浴」(2回)
 - ・原村社協「ひばりの会」同行介助(2回)
 - ・「花田養護学校生徒及び保護者諏訪湖竜宮丸乗船ツアー」
 - ・玉川ケヤキフェス「介護施設入居者同行支援」
 - ・認知症対応グループホーム入居者「諏訪湖散策と竜宮丸乗船体験」
 - ・障がい児「白樺湖乗馬体験とよいさ館木落疑似体験」
 - ・原村中学校生徒の車いす(JINRIKI)体験講座
- 観光と医療福祉連携
 - ・誤嚥を防いで楽しく食べるための諏訪地域の取り組み(研修会)
 - ・「人生を心豊かに旅する方法」(講演会)
 - ・よりよい共生社会のために知っておきたい大切な話(研修会)



【上諏訪温泉での入浴の様子】

事業効果

- 「地域トラベルサポーター」によって「旅をあきらめていた」障がい者・高齢要介護者及びご家族などが、旅ができる喜びが体験できた。また、受入関係者が「バリアがあっても大丈夫」と実感でき、障がい者や高齢者と一緒に喜びを感じ楽しめた事が大きな成果になった。
- モニターツアーにより「ユニバーサルツーリズム」の認知度が高まり、首都圏や諏訪圏から多数のツアー参加が得られるようになった。また、「地域トラベルサポーター」の資質・技能向上にもつながった。
- 諏訪地域の強みである、医療と福祉の連携を背景とした事業。「障がい者を理解する」ことをテーマとし、インクルーシブ・共生社会を目指す活動などで「ユニバーサルツーリズム」の根幹をなす問題に真正面から取り込み地域社会に話題が提供できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

諏訪圏に定着してきた地域トラベルサポーターの取り組みを「ユニバーサル・サポートすわ」が担う事になり、観光受入側の心のバリアフリーを含めユニバーサルツーリズムの聖地になるように活動していきたい。

誰もが、障がい・年齢に関係なく「できることではなく、やりたいことを」地域トラベルサポーターが地域の核になれるようにユニバーサルツーリズムの強化を図っていきたい。

【選定のポイント】

諏訪地域の強みである医療・福祉の連携が観光分野に活かされ、ユニバーサルツーリズムが地域に定着することにより、観光客の増加が期待される。

| | | | |
|-----|----------------------------|-------|------------|
| 団体名 | 諏訪地域トラベルサポート実行委員会 (諏訪市) | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 | 090-3558-450 | 事業費 | 1,145,640円 |
| メール | yunisaposuwa@gmail.com | 支援金額 | 907,000円 |

社員も会社も地域も「健幸」になる！健康経営トライアル事業

取組に至る背景・事業の目的

「健康経営」は企業にとっては新たな事業戦略として、また人材確保という面からも注目されている。社員が健康で働くことができれば、職場全体のモチベーションの向上、生産性の向上、更には家族の幸せや地域の活性化へと繋がっていくことから、本事業では、企業、医療関係機関、地域、行政、各種関係機関・団体等と連携をとり、信州 ACE プロジェクトの内容を取り入れながら、多くの企業が「健康経営」を導入できる仕組みを作っていく。

事業内容

- 企業において健康の大切さの周知と「健康経営」の仕組みづくりのために国等が推進している「健康経営優良法人認定制度」取得企業を増やすためのセミナーを2回開催。
- 従業員や地域の住民に健康であることの素晴らしさや体を動かすことの楽しさを知ってもらうために、大芝高原セラピーロードでウォーキングイベントを開催。
- 仕事の業種によって体の疲れ方や疲れる場所が違うことから、それぞれにあったストレッチを取り入れることでより仕事の効率が上がるストレッチを考案。



【健康ウォーキング】

事業効果

- セミナー開催により、「健康経営」への関心が高まり、参加者アンケートでは64%の人が今後取り組みたいという結果であった。
- 「健康づくりチャレンジ宣言」企業2社→10社
「健康経営優良法人2019認定」企業2社→7社
- ウォーキングイベントでは92名の参加があり、企業だけではなく、地域の人達にも健康の大切さを周知することができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 取組や導入に関するセミナーでは、すでに取り組み始めている企業、すでにセミナーへ参加したことのある企業では、情報の重複部分が多く、参加者を募るのが難しくなった。
- 中小企業では健康の重要性はわかっているが、他に優先すべきことがあり、すぐに取り組むことが困難であり、理解していただくことが難しい。
- 健康アドバイザーの活用により、申請の支援ができ、認定企業増につながった。
- ウォーキングと癒しブース（マッサージ、アロマ等）を設置したため、参加者がより一層楽しむことができた。
- ウォーキングでは参加者と一般の方と区別をつけるため、シールタイプのワッペンを作成。明るい色だったので、見分けやすかった。
- 大きな企業ほど、健康経営の取組やストレッチを全体に一気に広報するのが難しい。また、外部と内部に分かれる業種では、広報の仕方がわかりにくい。
- 今後は、ストレッチ動画の作成で広報する案が出た。

【選定のポイント】

女性の意見を多く取り入れた企画を実施し、企業が「健康経営」の重要性を認識するきっかけづくりを行ったことにより、「健康づくりチャレンジ宣言企業」及び「健康経営優良法人認定企業」を大幅に増加させるとともに、地域住民へも健康づくりの大切さを周知することができた。今後の事業の継続・発展が期待される。

| | | | |
|-----|------------------------------|-------|----------|
| 団体名 | 伊那商工会議所女子会プロジェクト (伊那市) | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 | 伊那商工会議所総務振興課 0265-72-7000 | 事業費 | 952,759円 |
| | | 支援金額 | 762,000円 |

子どもから高齢者における咀嚼啓発活動の展開「かみかみりレー」の実施

取組に至る背景・事業の目的

かみかみセンサーの開発等、信州 ACE プロジェクトを推進する中で、歯科の課題として、食べ物を噛めない子どもや高齢者においては口腔機能低下症が問題視されている現状がある。そこで子どもから高齢者における口腔機能の回復及び、肥満予防や糖尿病等の生活習慣病予防として、咀嚼の重要性と効用を地域と連携して啓発していくことで、人々が健康な生活を送ることができるようになることを目的とした。

事業内容

咀嚼の重要性と効用を地域の学校や関係機関と連携して啓発していくために次の 1)～4) を実施した。

- 1) 「かみかみりレー」(咀嚼の啓発活動を学校から学校へとリレーしていく活動) の実施による咀嚼啓発活動の展開
かみかみりレーののぼり旗の作製 (写真右端)
- 2) 咀嚼啓発キャラクター「かみかみ大使カミン」による啓発活動の推進
- 3) 食育指導用ポスターの作成と配布による食育活動
- 4) 咀嚼啓発用パペットの製作による咀嚼啓発活動



【竜峡中学校かみかみりレーとのぼり旗】

事業効果

平成 30 年度の咀嚼啓発活動は 21 の学校及び行政機関等で行い、かみかみりレーへの参加校は 6 校、参加人数は、のべ 1799 人と活動を広げた。また、咀嚼啓発キャラクター「かみかみ大使カミン」を使用し、長野県歯科医師会や日本咀嚼学会と連携、テレビや大会等に出演し、咀嚼の効用を広めることができた。

食育指導用ポスター 3 部を上下伊那の保育園・幼稚園・小中学校及び県内のかみかみりレー実施校に配布した。親しみやすくわかりやすい内容で、教室等に貼って食育指導に役立てた。

噛む回数を計測する「かみかみセンサー」は小中学校の保健委員会やクラス等で使用した。ACE プロジェクト in 南信州で一般の方への体験や、高齢者向けの介護予防教室等でも広く活用した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

啓発活動を進める中で、子どもも大人も咀嚼に対する知識や意識がまだまだ低いと実感した。そこで今後も咀嚼の啓発活動を推進していくため、関係機関との連携を更に深めながら活動を進めていくことが必要である。そのために、保育園・幼稚園・小中学校では、かみかみりレーを継続発展させていくこと、効果的な咀嚼の啓発活動を継続させていくため、キャラクターの活用やポスター等、新しいアイデアを駆使して食育の充実に寄与していくことが必要であると考え。また、かみかみセンサーは高齢者にも活用し、その効果の検証と啓発をしていきたいと考える。

【選定のポイント】

のべ 1,800 人以上に咀嚼啓発を行ったほか、咀嚼啓発キャラクター「かみかみ大使カミン」が、イベントやテレビ複数回出演し、多くの人の関心を集めた。飯田女子短期大学の持つ知見を地域全体に浸透させる取り組みも行うなど、幅広く活動している。

| | | |
|-----------------------------|-------|-----------|
| 団体名 飯田女子短期大学 (飯田市) | 事業タイプ | ソフト・ハード事業 |
| 連絡先 0265-22-4460 | 事業費 | 406,390円 |
| メールアドレス soumu@iidawjc.ac.jp | 支援金額 | 325,000円 |

文楽の世界と箏曲の調べを知る

取組に至る背景・事業の目的

グローバル化が益々進む今日、地域の子どもたちが将来海外で活躍する可能性も高く、自国の文化を知ることは必須となっている。そこで、文楽や箏曲を中心とした日本の伝統芸能・文化に接する機会を教育現場・福祉施設等で作り、地域の教育や文化的に豊かな地域づくりに貢献すること、伝統芸能や日本文化の普及・継承に努めることを目指した。伝統芸能等の技芸員や演奏者と生徒児童らが気軽に交流を図り、将来を考えるきっかけを作るキャリア教育の一助となることも目的である。

事業内容

教育現場や福祉施設などにプロの文楽の技芸員や箏曲の演奏者を招いて鑑賞教室や体験・実演教室など開催し、子どもたちや市民の方々に伝統文化を身近に感じ、経験として知ってもらう活動を行った。

また伝統芸能等に従事する技芸員や演奏者から厳しい修行に取り組む姿勢や自身が選んだ道を追求めるプロフェッショナルな精神を学びとってもらうことで、生徒児童らに自身の将来を考えるきっかけを作り、夢を持って真摯に自分の選んだ道を歩む大切さを感じてもらえた。

また3年間継続した事業の集大成として、大賀ホールでの本格的な公演を行い、これまで文楽のワークショップなどで得た知識、興味を深めてもらった。



【小学校での文楽体験・実演教室】

事業効果

平成 28、29 年度の過去 2 年間、小中学校や福祉施設などで文楽鑑賞教室や文楽教室を行うことで、文楽という伝統芸能を認知してもらえるようになった。平成 30 年度は 7 校での学校公演と子どもや福祉施設向けの大賀ホール公演など、計 1,100 人以上の参加を得られた。

特に小規模での文楽教室は参加者の印象に残ることが 29 年度の開催から検証され、長期的な興味へとつながると考えられることから、30 年度は 5 校で開催した。また少人数での開催により、キャリア教育への成果をあげることもできた。

箏曲の実演教室では、簡単な曲を弾けるようにすることで、古典音楽への興味を促すことができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

平成 29 年度から 2 年間かけて、少額の予算や少ない人数での実施の可能性と効果を探ってきた。文楽技芸員 3～5 名での予算や受講人数の規模などが把握できたので、令和元年度以降の継続の目処を立てることができた。3 年間の活動を通じて、継続的な協賛企業や協力者を得られることもできたので、今後も引き続き小さな規模での活動を継続していきたい。

【選定のポイント】

小中高校・福祉施設への訪問公演等の事業を 3 年間継続し、子どもたちをはじめ、地域住民が文楽や箏曲の伝統芸能に身近に親しみ理解することができる機会を多く創出した。今後も、この事業で築いた協力体制を活かし、地域の教育文化の振興に寄与する自立した取組の継続が期待できる。

| | | | |
|---------|--------------------------|-------|------------|
| 団体名 | 文楽・伝統芸能振興長野委員会（軽井沢町） | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 | 委員長 広川 美愛 | 事業費 | 5,304,769円 |
| メールアドレス | bunraku.nagano@gmail.com | 支援金額 | 3,668,000円 |

地域住民の読書活動の推進、図書館ボランティア等の市民協働への促進事業

取組に至る背景・事業の目的

- ボランティアの協力により市民が図書館運営に参加し協働する地盤を築いてきたが、ボランティアの高齢化、固定化等が課題になってきており、ボランティアへの参加を広げたい。
- 普段、図書館を利用しない市民へ本や読書の魅力を伝えるとともに、図書館が生きがいづくりや生涯学習の場となることをもっと知ってもらいたい。
- 「読書離れ」「活字離れ」が指摘されるなかで、親子で本を楽しむことから始まる読書体験から、自発的な読書活動の推進を図りたい。
- 全ての子どもが様々な場所や機会の中で自主的に読書活動ができるような環境の整備、充実を推進するため、保育園、幼稚園、小中学校、公民館、図書館等で活動しているボランティア団体や関係機関との連携強化を図りたい。

事業内容

1 「講演会」の開催

読書意欲や図書館の活用を喚起できるような著名な作家である高橋源一郎氏による講演会の開催
 実施時期：平成30年10月7日(日)
 会場：上田市上田文化会館
 演題：社会のことは、文学のことは、ラジオのことは



【超大型絵本読み聞かせ会】

2 「超大型絵本読み聞かせ会」の開催

- ・(株)ポプラ社による超大型絵本（高さ147cm、見開き240cm）の読み聞かせの他、子供たちに選んでもらった絵本の読み聞かせ。
- ・地域で活動しているボランティア団体による紙芝居、パネルシアターの実演

実施時期：平成31年1月20日(日)

会場：上田創造館

出演者：(株)ポプラ社 読書アドバイザー他4名、丸子・真田地域ボランティア8名

事業効果

- 当初計画を大きく上回る参加者を得ることができ、多くの方に図書館や読書の魅力を伝えることができた。（【講演会】計画300名、実績450名、【読み聞かせ会】計画100名、実績335名）
- 講演会の開催に併せ講師の著書のコーナーを設置したところ、貸出数が増加し、講演を機に本への興味を喚起することができた。
- 読み聞かせ会においてボランティア団体の活動を参加者に見てもらうことで、新たなボランティアへの参加が期待される。また、日頃それぞれの地域で活動しているボランティア団体同士の交流を深める機会となり、情報交換や今後の活動の連携を図っていくことが確認された。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 読書意欲を喚起できるような本の紹介や企画を検討していく。
- 各地域のボランティア団体へ呼びかけ、民間企業と協力した読み聞かせ会の開催を検討

【選定のポイント】

「超大型絵本」等のユニークな催しを開催し、多くの参加者を得て、図書館や読書の魅力を伝えることができた。日ごろは各地域で活動しているボランティア団体が事業をきっかけに交流を深めるとともに、活動に触れた一般の参加者が新たにボランティアに参加するという好循環が期待できる。

| | |
|---|--|
| 団体名 上田市 連絡先 0268-22-0880 (上田市立上田図書館) メール toshokan@city.ueda.nagano.jp ホームページ http://www.city.ueda.nagano.jp/toshokan/tanoshimu/toshokan/ueda/ | 事業タイプ ソフト事業 事業費 880,640円 支援金額 660,000円 |
|---|--|

諏訪地域の文化・自然を伝えるための資料の作成、普及事業

取組に至る背景・事業の目的

当プロジェクトは、平成 28 年の御柱の年に、小学校の読み聞かせボランティアや図書館司書が、子どもたちに御柱を含む地域の文化を分かりやすく伝えたいという思いで、紙芝居を作成することから始まった。諏訪地域の自然や文化について大人向けの研究的資料は多数あっても、子どもに分かりやすい資料が少ないという現状がある。

また、現在の少子化を目の当たりにして、少なくなっていく子どもたち（文化の担い手）に、地域の文化をどう受け渡していくのかが課題といえる。そこで、作成した紙芝居を、お話会を通して学校や地域で活躍する読み聞かせの皆様へ普及し、活用して頂くことを新たな目的とした。

平成 30 年までに、『諏訪の御柱祭』『御渡り』2 作の紙芝居を作成している。

事業内容

- 紙芝居の取材、作成、販売事業
 - ・新規『霧ヶ峰』（平成 30 年 5 月～2 月）200 部
霧ヶ峰自然保護センター、八島ビジターセンター、旧御射山神社宮司などに取材、旧御射山祭参加
 - ・作成してきた紙芝居の増刷 諏訪の御柱祭』『御渡り』（平成 30 年 9 月）各 50 部
- 紙芝居の読み聞かせ・普及事業
 - ・「諏訪のいま むかしおはなし会」開催
平成 30 年 11 月 11 日 セラ真澄にて（38 名）
 - ・小学校などでの読み聞かせ
読み聞かせボランティアとして参加している小学校などで紙芝居の読み聞かせ



【セラ真澄でのおはなし会の様子】

事業効果

- 紙芝居は県立長野図書館、諏訪地域 6 市町村の各図書館、岡谷市・下諏訪町・諏訪市などの各学校図書館などに購入頂き、利用者に供することができた。諏訪地域の小・中学校などの児童向けに読み聞かせを行って頂いている。また諏訪や下諏訪の観光協会、福祉施設などからの問い合わせもあり、児童だけでなく一般向けとしても利用範囲の広さを感じられた。
- 取材を通して地域の自然や文化を担う核となる方々とのつながりを作っていくことができ、次のテーマへとつながっていている。
- 作成した紙芝居を中心に、諏訪地域の民話やむかしばなしだけを集めた大人向けのお話会を行った。大変興味深かったとの声を頂いている。読み聞かせのベテランの皆さんなどに興味を持って別のお話会などで利用して頂くことにより、諏訪の文化をより多くの人に知って頂く機会が増えることが期待できる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 紙芝居の作成にあたっては、専門家にお話を伺ったり、貴重な地域資料を許可を取って活用しながら、極力間違いがなく分かりやすくなるよう工夫をこらしている。歴史的な話は言葉自体が難しく、高学年以上向きになってしまうことが難点である。
- 作成に時間がかかるため、おはなし会の回数が限られてしまうことが課題である。今後も機会を作ってイベントに参加するなど、読み聞かせの機会を増やし、諏訪の魅力ある文化や自然の普及に努めたい。
- 諏訪地域に限らず、全県の皆さんにも諏訪の素自然・文化の面白さを伝えていきたい。

【選定のポイント】

専門家の知識を地域住民にも分かりやすい内容で紙芝居化することで、特色ある諏訪地域の文化を普及、継承していくことが期待される。

| | | | |
|-----|---------------------------------------|-------|----------------|
| 団体名 | スワンプロジェクト（岡谷市） | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 | 0 2 6 6 - 2 3 - 3 1 1 6 （株）宮坂製糸所内） | 事業費 | 5 6 3, 8 8 2 円 |
| メール | silkfact@po29.lcv.ne.jp | 支援金額 | 3 6 1, 0 0 0 円 |

あかりこどもカフェ～郷土食を作って食べよう～お弁当を作ろう

取組に至る背景・事業の目的

相対的貧困や家庭の諸事情により、朝食を食べない子どもの増加が懸念されており、「食育」「食べる事の重要性」を理解することが必要となっている。

また、子育て世代の働き方も変化をしてきていて、女性の就労率の高まり、さらに休日に仕事の家庭も見られ、休日の子どもの過ごし方に不安を感じる。

このため、地元の短大、地域団体等のボランティアや町教育委員会の協力を得て、郷土食をテーマとしたこどもカフェ等を実施することにより、子どもたちの居場所づくりを行う。

事業内容

- こどもカフェの定期的な実施
4月から毎第3土曜日10時から15時まで。午前中は、おばあちゃんと郷土食を作って、昼食を皆で食べる。午後は、元教員・短大生のボランティアで宿題と学年にあったドリルの学習と自由時間。12回開催、参加者のべ334人。
- 「弁当の日」講演会
「食育」「食の重要性」を理解するため、竹下和男氏講演会を開催。参加者96名
- 弁当作りワークショップ
自分で弁当を作れる実践活動。4回開催、参加者のべ91人



【10月 ソースかつ丼作り】

事業効果

- 広報のためのチラシを毎回1500枚作成し町内全学校の子どもたちに情報を発信できた。その効果で参加者も予定人数を達成できた。
- 定期的に参加する子どもが多く、食事を作ることの楽しさを伝えることができた。
- 地域の方に周知することを目指したが、豊南短大の学生の参加が毎回あったことが良かった。
- カフェの食材は、町内近隣で地元食材を調達したことで季節感を感じるものとなった。
- 「弁当の日」講演会を開催したことで食の大切さを地域へ向けて発信ができた。地域新聞に掲載された。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

- 地域の方々には知っていただくという部分でまだまだ発信不足と感じているが地域新聞に活動が掲載される効果は大きく、新聞を見た近隣の多くの方が「あかり頑張っているね、楽しそうだね」「いいことしているね」と声をかけてくれた。
- 事前受付をして参加人数、保護者連絡先を明確にして実施した。保護者からは「土曜日5時間安心して預かってもらえるところできてうれしい」「今日、仕事だったので助かった」との声を頂いた。
- 調理にあたっては、手洗いの徹底等衛生管理(食中毒)、ケガの危険性を、子どもたちに理解させるため丁寧に説明し、注意をはらったことでトラブルがなかった。
- 次年度以降は食育の取組をさらに深めて、調理だけでなく畑で作物を作る取組を実施していきたい。

【選定のポイント】

こどもカフェは1回平均27.8人の参加があり、定期開催ができたことで、高齢者と子どもが安心して触れ合える居場所として地域に根づいた。また、事業を通じて子どもたちへ食の大切さを伝える取組とすることができた。今後の事業の継続・発展が期待される。

| | | | |
|-----|-----------------------------|-------|----------|
| 団体名 | NPO法人辰野自立生活支援の会あかり (辰野町) | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 | 0266-41-5256 | 事業費 | 409,771円 |
| | | 支援金額 | 327,000円 |

天竜川和船造船技術の伝承事業

取組に至る背景・事業の目的

「天竜川の舟下り」は平成 28 年に飯田市民俗文化財に指定されたが、舟下りを実施している 2 社では和船の造船・操船技術の継承が課題になっていた。そこで、信南交通株式会社と天龍ライン遊舟有限公司及び協賛団体が、和船の伝承を目的とした「天竜川和船文化保存会」を設立し、和船文化の伝承に向けた事業を開始した。

本事業では、地域産木材を使用した和船づくりを次世代に伝承し、文化交流に繋げていくとともに、インバウンド観光の推進に向けた情報発信を目的として実施した。

事業内容

- 1 和船造船技術の伝承
和船の造船技術を持つ船大工を講師として招聘し、船頭 2 名に対し技術の伝承を行った。
和船には下伊那郡根羽村産の木材を使用した。
- 2 ウェブサイトの制作
保存会の活動内容を紹介するウェブサイトを作成し、地域内外に和船文化を周知した。
- 3 和船文化を通じた海外交流の実施
アメリカ人船大工を招聘し、和船の共同制作を行った。
- 4 シンポジウムの開催
アメリカ人船大工の基調講演や、和船文化の伝承についてのパネルディスカッションを実施した。
- 5 造船見学・体験会の開催
小学生や高校生、地域住民に対する造船見学会や体験会を開催した。



【地元小学生による見学・体験風景】

事業効果

- ・船頭 2 名を船大工に育成し、造船の流れや特殊な道具の使い方などを習得した。
- ・船大工体験会は 3 校 71 名、造船見学会は 82 名の参加があり、地域住民に船大工への理解と興味を深めてもらうことができた。また、メディアの取材があったことで全国的にも希少な和船造船文化があることを周知できた。
- ・シンポジウムには 41 名の来場者があったほか、新聞の取材もあり多くの方に活動を周知できた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

訪問された方のご意見

- ・市田で造船しているとは思わなかった。
- ・舟を外注していると思った。
- ・実際やってみると難しい。
- ・木の香りが心地よかった。
- ・釘打ちのリズムを聞くと踊りたくなる。

工夫・苦労した点

- ・曲線を操るのが難しい（家は直線だが、舟は曲線）
- ・無理すると木は割れてしまうため、木のご機嫌を伺いながら慎重に作った。

今後の取り組み

- ・写真でしか見たことのない「つなぎ船」を作る。

課題

- ・設計図が存在しないので、今後設計図を作成していかなければならない。

【選定のポイント】

南信州地域の文化である「天竜川の舟下り」や和船が多くの方に再認識されるきっかけとなった。また、企業や地域の枠を超え「天竜川」を核とした観光振興を推進していく機運が高まった。

| | |
|--|---|
| <p>団体名 天竜川和船文化保存会（飯田市） 連絡先 0265-24-3345 ホームページ：https://www.tenryu-wasen.com/</p> | <p>事業タイプ ソフト・ハード事業 事業費 2,845,457円 支援金額 2,276,000円</p> |
|--|---|

科学実験教室「超低温の不思議な世界&リニア」

取組に至る背景・事業の目的

南信州飯田おもしろ科学工房では、毎週末に行う理科実験ミュージアム、地域の公民館などに出向き理科実験などを行う出前工房、小中学校での科学実験教室・科学クラブ支援などを行っています。

数ある実験メニューの中で、超電導リニア中央新幹線長野県駅ができるこの地域では、「超低温の不思議な世界&リニア」をテーマにした実験を行う学校が増えてきました。この実験教室は、科学への興味を深めるだけでなく、超電導体を用いてリニア新幹線などの技術研究のすばらしさに触れ、まだまだ未開発の超電導を使った「ものづくり」への夢や探求心などを高めることを目的にしています。

そして、リニア駅ができるこの地域や将来について考え、この地域がどのように変わっていくか、どのように変わらないでほしいか、子どもたち一人ひとりが向き合い、考え合う機会を創出します。

事業内容

液体窒素を使い、花や風船など身近なものを凍らせる実験や、超電導体の不思議を体験する実験を行いました。またリニア中央新幹線に関わる超電導磁石・浮上・推進の原理もデモキットを使って説明しました。リニア中央新幹線の駅ができる飯田だからこそ取り組みたい実験が行えました。

- 1 理科実験ミュージアム
- 2 出前工房
- 3 学校科学実験教室・科学クラブ支援
- 4 教職員研修会



【実験教室で興味津々の子どもたち】

事業効果

- ①おもしろ科学工房の活動を発展させ取り組むことができました。
- ②学校での科学実験教室では、地域の方々がスタッフとしてサポートを行う体制が整いつつあり、学校と地域が一緒になって、子どもを育てる取り組みにつながりました。
- ③リニア中央新幹線開業への関心が高まる中、実験を通して子どもたちにリニアの原理を伝え、そこから地域や自分たちの将来を考えるきっかけづくりができました。
- ④下伊那理科教育研究会の理科基礎実技講習会にて、超伝導体を用いた学校授業の展開について、教職員の皆さんと理科実験の新たな方向性について考える場を設けました。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

実験に必要な不可欠な超電導体は特殊なものであり、国際超電導産業技術研究センターから借用ができなくなったため、元気づくり支援金を活用して整備しました。これにより今年度は学校や地域において、「超低温の不思議な世界&リニア」をテーマにした科学実験教室を10回開催することができました。また借用では、費用や実施期間の制約などの問題がありましたが、年間を通して学校や地域からの要望に応えることができるようになりました。参加者からは「子どもがキラキラした目で実験を見ていた」「こんな身近に科学に触れられる場が、なかなか無いので本当にありがたい」などの感想も寄せられました。

今後も、こうした実験教室をきっかけに、学校と地域との連携が進み、多くの子どもたちに科学の不思議や楽しさに触れてもらう場の提供をしていきたいと考えています。

【選定のポイント】

8年後に開通が予定されているリニア中央新幹線の原理や仕組みについて、実験教室を通じて多くの子どもや保護者に伝えることができた。また理科の教員向けにも実験教室を実施するなど、リニアを軸とした理科実験教育のさらなる広がりが期待できる。

| | | | |
|--------|---|-------|----------|
| 団体名 | 南信州飯田おもしろ科学工房（飯田市） | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 事務局 | 飯田市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 | 事業費 | 528,984円 |
| 連絡先 | 0265-22-4511（内線3742） | 支援金額 | 396,000円 |
| ホームページ | https://www.i-kagaku.net | | |

木曾ペインティングス

取組に至る背景・事業の目的

- 木曾地域は観光地としては来訪者が減少傾向にあるので、イベントにより観光客の増加や中山道など地域資源の活用に繋げたい。
- 中山道の間地点でアーティストを招致して行う芸術活動により、新たな木曾の観光地や移住地としての魅力を生み出す。また、アーティストが企画するワークショップの開催や地域住民との共同作業により、世代や文化を越えた交流を生み、暮らしの楽しみを増やし、新しい地域文化として根付かせたい。
- 地域の子どもたちが一線で活躍するアーティストから美術を学ぶ機会を作り、美術が身近な存在となり、視野の広い寛容な心を育みたい。
- 地域に眠る自然資源を発掘し、持続可能な絵画の在り方について模索する。

事業内容

- 全国からアーティストや美術を学ぶ学生が集まり、木曾を題材に滞在制作し展覧会を行った。作品の素材も地域資源を活用した。
- 定期的に美術作家を招き、地域住民向けにワークショップを行った。日義小学校生徒とは複数回の課外授業を通じて土地の持つ歴史“旗挙げ”の準備、開催に取り組んだ。
- 展覧会のテーマ“けものみち”に因んだ映画「アルビノの木」上映会と監督のトークイベントを開催した。
- 参加型イベントでは多くの出店者が集い、参加者自らパフォーマンスやライブイベントを行った。
- 地域企業とコラボレーションし、オリジナルポスターや商品ラベルを共同作成した。



【 “旗挙げ”の様子 】

事業効果

- 展覧会では展示作品を購入したいとの問い合わせ等があり、美術への興味や関心の高さが伺えた。
- 学校の授業枠を使った課外授業として、また地域公民館分館との共催のワークショップを開催することで、対象を絞り内容を充実させた。
- 空き家を展示会場として利用するなど、新しい空き家活用の道を示した。
- 映画や展示等を通じ、地域住民が自分たちの地域が抱える問題について考えるきっかけとなった。
- 地域企業とのコラボレーションを継続的に行ってきたことで地域からの協力を得られた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 地域内の宿泊施設が少なかったが、旅情庵(木曾町)と良好な相互関係を築き、招致アーティストの滞在場所と出来た。
- 住民ボランティアを増やし、アーティストが更に地域と関わりながら活動が出来るよう取り組みたい。
- アーティスト夫婦の、滞在先から制作場所までの移動手段が無いのが今後も課題となる。
- 次年度も地域の問題をテーマに展覧会イベントを同時期に行う。

【選定のポイント】

様々な所で地域住民が作品に触れ、作家と交流した。特に地元小学生が地域を舞台として芸術に触れる良い機会となった。さらに、空家を会場とする新しい活用の道を示した。引き続き住民を巻き込み、長期継続的に活動を定着させていくことが期待される。

| | | | |
|--------|---|-------|------------|
| 団体名 | 木曾ペインティングス実行委員会（木曾町） | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 | 050-3700-5277 kisopaintings@gmail.com | 事業費 | 1,624,683円 |
| ホームページ | https://www.kisopaintings.com | 支援金額 | 1,283,000円 |

Local Active—Learning Project 事業

取組に至る背景・事業の目的

木曾町開田高原には学習塾が無く、学習塾に通うには木曾福島地区まで通わざるを得ない。しかし、唯一の公共交通である路線バスも本数が少なく地理的に不利といえる。保護者や生徒から放課後学習支援を望む声は多いが、引き受けられる住民がいないのも現状である。そこで、慶応大学の学生と協力し、大学生の夏と冬の長期休業期間中に開田高原に滞在してもらい、大学生による学習支援により学力の底上げを図りたい。

また、高校卒業と同時に都市部へ流出することが多い年代を地域に呼び込み、交流人口の増加を図る。大学生には積極的に地域行事に参加してもらうことにより、一緒に学ぶ中学生も地域行事に呼び込み、地域の活性化を図る。

事業内容

- 国際ナショナル・サマー・キャンプの開催
8月6日から9日の夏休み期間を利用して中学校生徒と慶応大学生との異文化交流事業「国際ナショナル・サマー・キャンプ」を開催。開田の課題を模索し、解決策を発表。
- 夏期冬期学習支援事業の開催
本来の目的である生徒の学力向上のため、放課後学習支援を行った。夏休み期間中は高校生や小学生の参加もあり、幅広い年代の学習支援を行った。
夏期8月6日～25日、冬期2月6日～3月15日。



【冬期学習支援の様子】

事業効果

- 学生の夏期、冬期の長期休暇を利用して、生徒、児童の学力向上のため学習支援を行い、毎日10人前後の参加があった。
- サマーキャンプで異世代異文化の交流を行い、地元の生徒一人ひとりの意識改革ができた。
- サマーキャンプ期間中、大学生が試住住宅を拠点として活動している。近隣住民から野菜の提供があったり、大学生も住宅周辺のごみ拾いや、清掃活動をしたりと交流の幅を広げ、地域に溶け込んだ生活がなされている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

学習支援、サマーキャンプの実施により、教師、保護者からは「生徒の勉強することへの意識、姿勢が変わった」、また、生徒からは「先生以外から教わることにより友達的な感覚で何でも聞いて教わるのができて楽しい」と両方から好評を得ている。更に活動、信頼を深めるため大学生が毎月1回程度、休日を利用し開田を訪れ、生徒、児童の学習支援にあたっている。

【選定のポイント】

開田中学校、慶応大学双方の積極的な活動により、単なる放課後支援、短期間交流にとどまらず、つながり人口の増加に加え、つながりの密度も期待以上と評価できる。今後、他地域へ取組が拡大することを期待する。

| | | | |
|---------|---|-------|----------|
| 団体名 | 木曾町 | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 | 開田教育事務所 吉田和彦 0264-42-3331 (開田支所内) | 事業費 | 573,058円 |
| ホームページ | http://www.town-kiso.com | 支援金額 | 458,000円 |
| メールアドレス | k-kyoiku@town-kiso.net | | |

ふれあい町づくり 大日堂事業

取組に至る背景・事業の目的

少子高齢化の進展が町会の運営にも大きな影響をもたらしている。そのため、町会の皆さんがまとまり易い沢村の文化財群を活用し、その存在を子どもから高齢者に至るまでアピール、町会役員の活躍の目が目立つ町会から総活躍町会に変化していく事を事業目的とした。

事業内容

- 講演会と大日堂文化財の見学
深志高校「鼎談深志」「地歴研究会」と沢村の文化財について学習会の実施。
- 子ども達による「沢村音頭」の練習と納涼祭参加
将来を見据えて伝承を確実なものとするためにオリジナルTシャツを作成し、練習を行った。
- 第3回沢村納涼祭の実施
沢村音頭を踊り、町会の親交を深める機会となった。
- 焼き芋会の実施



【沢村音頭 地域への広がり】

事業効果

- 沢村音頭の復活と広がり、城北に定着しつつある踊り
子ども会のラジオ体操終了後、「沢村音頭」の練習により裾野の広がりを実現。沢村音頭は沢村町会のみならず、踊りを通して城北地区の絆が一段と深まった。
- 子ども達への文化財勉強会を実施
紙芝居による文化財勉強会を実施、地域のお宝をわかり易く説明、理解度を深めた。
- 講演会・広域協力体制の構築への取り組み
地域フォーラム鼎談深志と交流を行い広域協力体制の確立を図った。
- 焼き芋会
子ども達の喜び、発想は町会運営に良い影響を与えた

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

最終目標として、高齢化がもたらす限られた役員のみが運営する町会から脱却し、町会全体で担う総活躍町会を目指し、広域で補完し合う相乗効果を目指とする。町会運営が厳しくなる中、子どもから高齢者まで楽しめる生き生きとした町会運営を今後も心掛けていく。

【選定のポイント】

町会活動の活性化が大きな課題になっている中で、高校生との連携をしながら、地域の文化伝承に取り組み、地域活性化につなげており、先進的なモデル的な事業であるといえる。

| | | | |
|-----|---|-------|-----------|
| 団体名 | 沢村町会（松本市） | 事業タイプ | ソフト・ハード事業 |
| 連絡先 | 曾根原 力 0263-32-9785 sonehara.tsutomu@gmail.com | 事業費 | 529,885円 |
| | | 支援金額 | 368,000円 |

箱膳を活用した食育推進事業

取組に至る背景・事業の目的

伝統的な地域の暮らしや食文化、食の持つ「作法」「行事（感謝、いのり）」「自給（ふるさと、平和）」が高度経済成長とともに消えゆく危機感から、これらを次世代に引き継いでいきたいと、平成 21 年に当会前身のひらがな料理普及隊を結成。その後、和食が世界の無形文化遺産に登録されたことから、平成 29 年度に「信州ひらがな料理普及隊」として再結成した。

次世代へ「食べごと」の文化を伝えるため、江戸時代に盛んに庶民に使用された、木の箱の中に食器などを収納する「箱膳」をツールとして活用。ふるさとに誇りを感じるおやつや、伝えたい日常食などの地域の食を意識した食育活動を通じ、豊かな地域文化の伝承と創造に寄与する。

事業内容

日本人の食に向かう「作法」「行事」「自給」の考えを、楽しみながら次世代に引き継ぐため、箱膳という和食の食事スタイルに着目。箱膳体験を傘下の会員団体が開催し、かつ児童生徒や一般の方にも理解できるよう、各々に応じた学習用パンフレットを作成し、新しい信州らしいライフスタイルを提案する事業。

- 箱膳体験の実施
- 食育用及び箱膳用学習パンフレットの作成
(小学生版、中学生版、高校生版)
- パンフレットを使った公民館講座や学校での座学の開催



【箱膳体験・食育学習の様子】

事業効果

- 箱膳体験では、当会の参画 10 団体で全 80 回を開催、1,840 人が受講。特に、観光客やインバウンド向けにも要望が多く、善光寺 100 人箱膳など多様な方々に対し活動を繰り広げることができた。
- 公民館講座はもとより、学校栄養教諭、シニア大学、全国規模のサミットや大学等にも活動は広がり、活発に活動を実施したことで、企業など新たに学習を希望する者がでてきているなど、波及効果があった。
- 今までは一律のパンフレットしかなかったが、今回、10 種類の食育基本セット、小中高校生に区分した箱膳体験用のパンフレットを作成したことで、対象に合わせた食育学習会を開催することができるようになった。
- 伝統的な地域の暮らしや信州の食文化、そして食にまつわる「作法」「行事」「自給」、お米の学習を通じて、子ども達から「普段から意識したい」「食事に感謝をしたい」などの感想も聞かれ、理解を深めることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

対象に合わせた学習用教材を作成したこと、メディアの方にも PR し、情報として多く取り上げていただいたことなどが功を奏した。

今後は、引き続き学校や公民館活動に力を入れるとともに、令和 2 年 6 月に開催される予定の全国食育推進大会でも PR し、信州オリジナルの「箱膳を活用した食育」を全国に伝えていきたい。

【選定のポイント】

観光客向けや小中学生等年代にあわせた食育学習用パンフレットの作成と活用により、箱膳をツールとした信州の昔から伝わる料理などの食文化体験や作法等の学びが魅力あるものとなったほか、積極的な体験活動により、広く発信することができ、信州の伝統的な食文化の伝承に貢献した。

| | | | |
|--------|--------------------------|-------|------------|
| 団体名 | 信州ひらがな料理普及隊（長野市） | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 | 事務局 長野県農村文化協会内 | 事業費 | 1,829,520円 |
| 専用電話 | 090-5818-6880 | 支援金額 | 785,000円 |
| FAX | 026-228-8021 | | |
| ホームページ | linknet.naganoblog.jp | | |
| | 伝える食と農リンクネット 信州ひらがな料理普及隊 | | |

市民第九コンサート（プレ飯山音楽祭）事業

取組に至る背景・事業の目的

飯山市における文化芸術活動の多くは中高齢者が中心で、特に芸術音楽（合唱分野）は市内中学、高校でのクラブ活動もなく、市民活動への若年層の参加も非常に少ない状況であり、今後の文化芸術活動の衰退が懸念される。平成 28、29 年と 2 回開催した市民第九コンサート事業に引き続き取り組み、市民第九コンサートと市内・近隣の合唱団、他ジャンルの団体、個人の音楽愛好家が気軽に参加できる交流会、プロによる子供向け企画、アウトリーチコンサート、ワークショップをプレ飯山音楽祭として位置づけ、仲間づくりや若者をはじめとした人材づくりなど、持続ある文化芸術活動の推進を図り、来年度、飯山音楽祭に発展させることを目的とする。

事業内容

市民の活力向上と仲間づくり、人材づくりなど持続ある文化芸術活動の展開につなげる。

- ・市民第九合唱団の活動（練習）を通じ、仲間づくり、人材づくり。5月～11月に計 17 回。団員 111 名。
- ・市民第九コンサートの開催 11 月 25 日（入場者 472 名）
- ・オープニング交流会、0 歳児から楽しめるコンサートの開催 11 月 23 日（交流会 5 団体、1 個人、入場者 150 名）、
（0 歳児コンサート 入場者 215 名）
- ・清泉女学院短期大学、飯水音楽同好会の発表（11 月 24 日）
- ・なちゅら音楽祭 2018 【76 名参加】、大阪コミュニティー合唱祭参加 【20 名参加】、市民交流の実施
- ・常岩の里「ながみね」でのアウトリーチ活動 【60 名参加】



【コンサート本番の様子】

事業効果

- ① プロのオーケストラやソリストの出演により、質の高い文化芸術の提供が市民等にできた。
- ② 日頃の練習やなちゅら音楽祭 2018、大阪コミュニティー合唱祭への出演などにより、市民交流が活発に行われ、活動を通じた仲間づくりや積極的に運営に関わる機運が回を重ねるごとに増え始めた。
- ③ 文化芸術の普及や振興を目的に、普段、文化芸術に触れる機会の少ない方を対象にしたアウトリーチ活動では、高い評価をいただき、以後の開催を希望される声が多く聞かれた。
- ④ 今回公募した小学生が平成 30 年より少年少女合唱団として活動を始めた。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

様々なジャンルの音楽団体・愛好家が加わったことで多方面で評価されるようになった。活動も市民に浸透しつつあり、文化芸術に対する関心も高まった。

活動の継続を目的に企画運営に携わるスタッフを取り込み、仲間、人材づくりを拡充し、演奏家等の来飯に併せたアウトリーチ活動を引き続き実施していく。また、地元の催事への参加など、合唱団活動を通じた文化芸術の普及と市民交流の拡大に貢献していきたい。

【選定のポイント】

「プレ飯山音楽祭」として、市民協働による第九コンサートに加え、プロによる質の高い音楽の提供、アウトリーチコンサートを実施し、市民が文化芸術に親しみ学ぶ意欲を喚起し、市民交流や文化芸術への関心を深めることができた。これらの取組を飯山音楽祭へと発展させ、地域住民のさらなる活動の広がり等が期待できる。

| | | | |
|-----|-------------------------------------|-------|-------------------|
| 団体名 | 市民第九コンサート実行委員会（飯山市） | 事業タイプ | ソフト事業 |
| 連絡先 | 0 2 6 9 - 6 2 - 3 3 4 2 （飯山市公民館） | 事業費 | 4, 5 8 1, 5 6 8 円 |
| | | 支援金額 | 1, 2 0 0, 0 0 0 円 |